上田八木短資

ウィークリーシグナル

2026年11月20日

<来週の資金需給予想とイベント予定>

（単位：億円）

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/23 (月)	勤労感謝の日						米：製造業・サービス業PMI(11月) 欧：製造業・サービス業PMI(11月)
11/24 (火)	▲ 600	＋ 5,300	＋ 4,700	流動性供給 国庫短期証券発行償還（3M）			日：製造業・サービス業PMI(11月)
11/25 (水)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000		共通担保（全） ▲ 8,000		日：消費者物価のコア指標 米：GDP(3Q) 地区連銀経済報告(ベージュブック)
11/26 (木)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000	国債発行（40年）			日：日銀の田村審議委員が山梨県金融経済懇談会で講演
11/27 (金)	▲ 1,000	▲ 3,700	▲ 4,700				日：東京CPI(11月) 欧：ユーロ圏消費者信頼感指数(11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比8,600億円増加の414兆300億円から始まった。その後、国債発行や国債買入等の要因により増減し20日は410兆1,600億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、1.228%から始まり、その後も概ね横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物1.22%～1.44%のレンジ、1M～3M物1.48%～1.65%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では25日に消費者物価のコア指標の公表、26日に日銀の田村審議委員の講演

海外では25日に米GDP、地区連銀経済報告(ベージュブック)の公表などがある。

［無担保コールレート］

	予想レンジ（%）
O/N	1.220 ～ 1.228
1M	1.30 ～ 1.45
2M	1.50 ～ 1.60
3M	1.55 ～ 1.70
6M	1.75 ～ 1.80

<レポ>

足許GCは週を通して1.250%～1.255%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484～488回債、5年180~187回債、10年361~372、379~383回債、20年194~198回債、30年87~91回債などに引合いが見られた。

［オープン市場］

	予想レンジ（%）
現先（on/1w）	1.2台前半
CP 3M（a-1+）	1.4~1.6台

<CP>

今週の入札発行総額は2兆6,987億円で、週間償還額の2兆540億円を上回った。発行残高は、先週末時点の25兆2,374億円から、11月19日時点で26兆2,827億円へと増加した。発行市場では、食料品・ゴム製品・ガス業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.2%台後半から1.4%台、3ケ月物で1.5%台から1.6%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約3兆8,400億円となっている。発行市場は、祝日により営業日数が少ないものの、月末の大型償還に伴う相応のロールが想定されるため、活況なマーケットが見込まれる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることから、引き続き水準を探る展開となるだろう。

<TDB>

18日の1Y（第1420回債）の入札は、最高落札利回り1.6551%（前回債1.6322%）、平均落札利回り1.6469%（前回債1.6229%）となった。

20日の3M（第1421回債）の入札は、最高落札利回り1.2742%（前回債1.2800%）、平均落札利回り1.2617%（前回債1.2713%）となった。

来週の入札は27日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社　登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243号　加入協会 日本証券業協会